

## 2 小 学 校

児童数 57,959 人で減少

男子児童、女子児童とも 2 万人台に

表 4 小学校の推移

(単位：校、学級、人、%)

年度	A 学校数	B 学級数	C		D		1 学級当たり		本務教員 1 人当たり		女子教員 の占める 割合
			児童数	対前年度 増減率	教員数 (本務者)	対前年度 増減率	児童数 C/B	対前年度 増減数	児童数 C/D	対前年度 増減数	
平成19	210	2,435	61,048	△0.6	3,662	△0.2	25.1	0.0	16.7	0.0	68.7
20	206	2,454	61,135	0.1	3,667	0.1	24.9	△0.2	16.7	0.0	68.5
21	204	2,445	60,459	△1.1	3,679	0.3	24.7	△0.2	16.4	△0.3	68.2
22	203	2,430	59,870	△1.0	3,700	0.6	24.6	△0.1	16.2	△0.2	68.2
23	201	2,432	59,145	△1.2	3,717	0.5	24.3	△0.3	15.9	△0.3	67.5
<b>24</b>	<b>199</b>	<b>2,384</b>	<b>57,959</b>	<b>△2.0</b>	<b>3,682</b>	<b>△0.9</b>	<b>24.3</b>	<b>0.0</b>	<b>15.7</b>	<b>△0.2</b>	<b>67.2</b>
国立	1	12	468	△1.7	18	0.0	39.0	△0.7	26.0	△0.4	33.3
公立	198	2,372	57,491	△2.0	3,664	△0.9	24.2	0.0	15.7	△0.2	67.4

### (1) 学校数

学校数は 199 校（本校 199 校）で、前年度より 2 校減少（減少のみ）し、このうち休校は 3 校であった。

設置者別にみると、国立が 1 校、公立が 198 校となっている。

市町村別では、富山市 66 校、高岡市 28 校、射水市 15 校などとなっている。

学級数別では、7 学級の学校が 33 校（構成比 16.6%）で最も多く、次いで 13 学級の学校が 17 校（同 8.5%）、14 学級の学校が 16 校（同 8.0%）となっている。学級規模で学校数をみると、「11 学級以下（小規模又は休校）」が 98 校（構成比 49.2%）、「12～18 学級（標準）」が 70 校（同 35.2%）、「19 学級以上（大規模）」が 31 校（同 15.6%）となっている。

（表 4、統計表 17、26）

### (2) 学級数

学級数は 2,384 学級で、前年度より 48 学級減少している。

編制方式別にみると、単式学級が 2,054 学級（構成比 86.2%）、複式学級が 26 学級（同 1.1%）、特別支援学級が 304 学級（同 12.8%）となっている。

（表 4、統計表 18）

### (3) 児童数

児童数は 57,959 人（男子 29,764 人、女子 28,195 人）で、前年度より 1,186 人（2.0%）減少している。これはピーク時（昭和 33 年度、159,700 人）の 36.3%である。

学級編制方式別にみると、単式学級児童が 56,879 人、複式学級児童が 278 人、特別支援学級児童が 802 人となっている。

市町村別では、富山市 22,807 人、高岡市 8,773 人、射水市 5,558 人の順に多い。対前年度増減数をみると、富山市 423 人（1.8%）、高岡市 287 人（3.2%）、砺波市 76 人（2.5%）などすべての市町村で減少している。

1学級当たりの児童数は24.3人（前年度24.3人）で、全国の24.6人を下回っている。  
 本務教員1人当たりの児童数は15.7人（前年度15.9人）で、全国の16.2人を下回っている。  
 （表4、5、統計表19、29）

表5 男女別及び学年別児童数の推移

（単位：人）

年度	計	男子	女子	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
平成19	61,048	31,238	29,810	10,125	10,186	10,123	10,187	10,341	10,086
20	61,135	31,179	29,956	10,168	10,128	10,201	10,121	10,174	10,343
21	60,459	31,027	29,432	9,673	10,152	10,132	10,205	10,121	10,176
22	59,870	30,613	29,257	9,586	9,680	10,151	10,126	10,210	10,117
23	59,145	30,228	28,917	9,327	9,594	9,704	10,151	10,145	10,224
<b>24</b>	<b>57,959</b>	<b>29,764</b>	<b>28,195</b>	<b>9,034</b>	<b>9,349</b>	<b>9,587</b>	<b>9,692</b>	<b>10,156</b>	<b>10,141</b>

（4）教員数及び職員数

教員数（本務者）は3,682人（男子1,208人、女子2,474人）で、前年度より35人（0.9%）減少している。教員数に占める女子教員の割合は67.2%である。

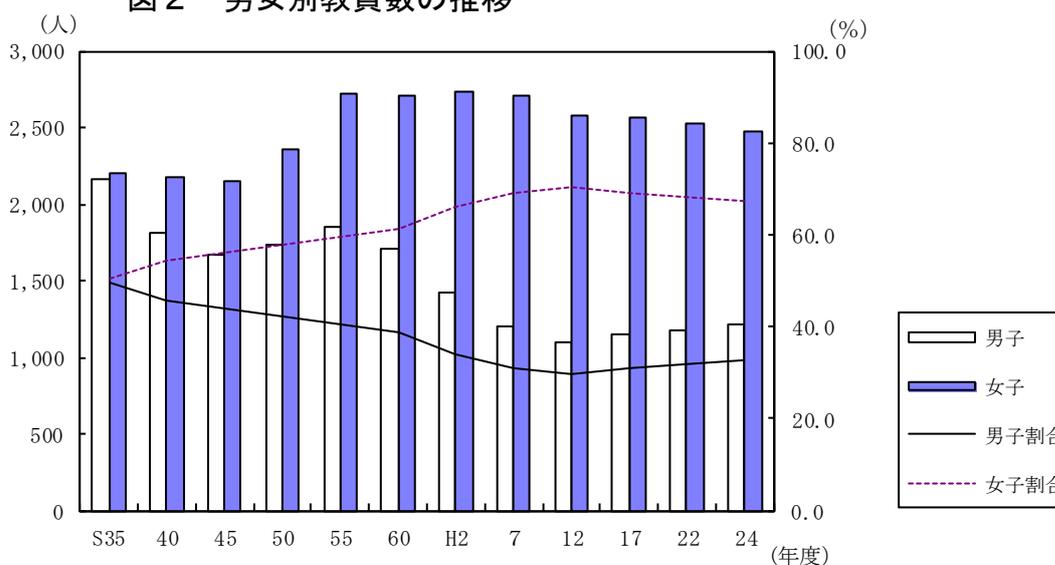
職員数は857人で、前年度より18人減少している。（表4、6、図2、統計表20、21、34）

表6 男女別教員数

（単位：人）

年度	計	男	女
平成19	3,662	1,146	2,516
20	3,667	1,155	2,512
21	3,679	1,170	2,509
22	3,700	1,178	2,522
23	3,717	1,207	2,510
<b>24</b>	<b>3,682</b>	<b>1,208</b>	<b>2,474</b>

図2 男女別教員数の推移



### (5) 長期欠席者数

平成 23 年度間の 30 日以上の長期欠席者数は、平成 22 年度間より 15 人（4.1%）多い 383 人で、理由別では「不登校」が 201 人（構成比 52.5%）で最も多く、次いで「その他」が 117 人（同 30.5%）、「病気」が 64 人（同 16.7%）となっている。

全児童数（平成 23 年度児童数 59,145 人）に占める長期欠席者の比率は、全国の 0.79% より 0.14 ポイント低い 0.65% で、低い順に全国第 16 位（前年度第 16 位）であった。

また、全児童数に占める「不登校」の比率は、全国の 0.33% より 0.01 ポイント高い 0.34% で、低い順に全国第 27 位（前年度第 24 位）であった。

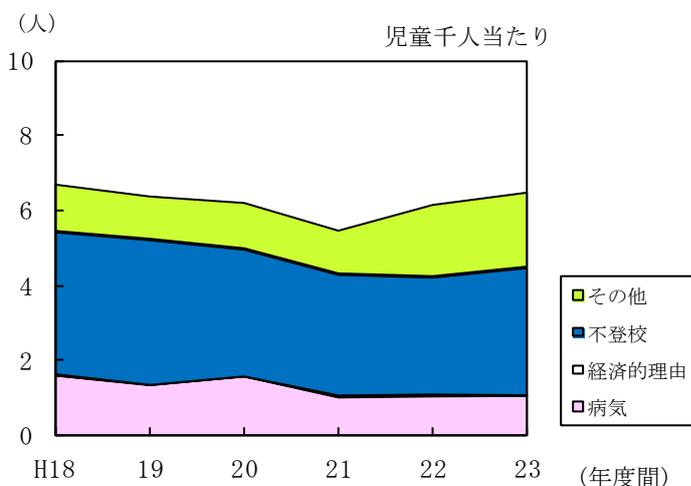
（表 7、8、図 3、4、統計表 23）

**表 7 理由別長期欠席者数**（単位：人）

年度間	計	長期欠席（30日以上）理由			
		病気	経済的 理由	不登校	その他
平成18	411	99	3	233	76
19	389	83	1	236	69
20	379	97	1	207	74
21	330	63	3	195	69
22	368	64	3	187	114
<b>23</b>	<b>383</b>	<b>64</b>	<b>1</b>	<b>201</b>	<b>117</b>

注）「その他」には、「欠席理由が2つ以上（「病気」と「不登校」など）あり主たる理由を特定できない者」や「保護者の無理解・無関心から欠席している者」が含まれている。

**図 3 長期欠席理由別推移**



$$\text{児童千人当たりの長期欠席者数} = \frac{\text{各年度間の長期欠席者数}}{\text{各年5月1日現在の児童数}} \times 1000$$

**表 8 全児童数に占める不登校の比率**

年度間	富山県		全 国
	富山県	全 国	
平成18	0.38	0.33	
19	0.39	0.34	
20	0.34	0.32	
21	0.32	0.32	
22	0.31	0.32	
<b>23</b>	<b>0.34</b>	<b>0.33</b>	

$$\text{比率} = \frac{\text{各年度間不登校の欠席者数}}{\text{各年5月1日現在児童数}} \times 100$$

**図 4 長期欠席者数の推移**

